

GK情報レポート

【2013年発行】

vol. 38

秋号

発行者

権田金属工業株式会社 営業部

〒252-0212

神奈川県相模原市中央区宮下 1-1-16

電話 042-700-0221

FAX 042-700-0660

E-mail: eigyo@gondametal.co.jp

<http://www.gondametal.co.jp>

Contents


1. 創業 95 周年を迎えて
2. マグネシウム合金板のコスト半減に挑戦！
3. 部長交代のご挨拶
4. 加工品について
5. 相模原市について Part2
6. 相場情報『2013 年第 4 四半期見通し』

皆様でご回覧下さい。

回覧印										
-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※バックナンバー（Vol.1～37）をご用意しております。ご希望の方は当社営業部までお問い合わせ下さい

権田金属工業株式会社



1. 創業 95 周年を迎えて

ごあいさつ

当社は、1918 年(大正7年)の創業以来、本年 10 月 10 日で 95 周年を迎えることができました。

これもひとえに、私共をお引き立て下さいましたお取引先の皆様方をはじめ関係者の方々のご支援の賜物と心より厚く御礼を申し上げます。

これからも当社を取り巻く環境の変化に柔軟にかつ、常に前向きに対応しながら、少しでも社会のお役に立てるよう努力を続けていく所存です。

皆様方の今後益々のご指導とご支援を心よりお願い申し上げます。

2013 年 10 月吉日

権田金属工業株式会社

代表取締役社長 権田源太郎

2. マグネシウム合金板のコスト半減に挑戦

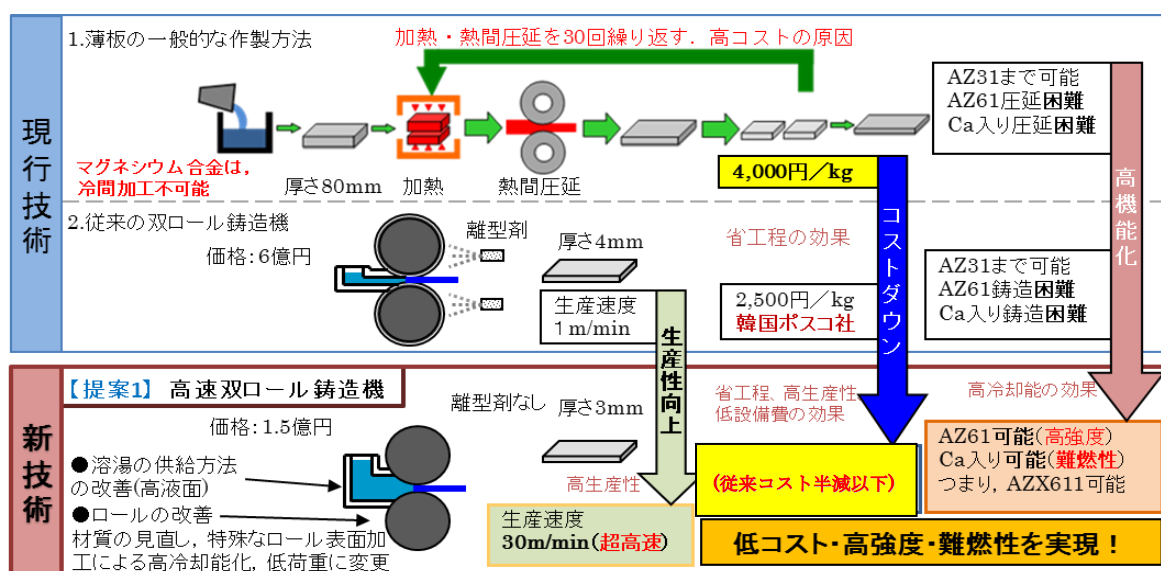
平成 25 年度戦略的基盤技術高度化支援事業に採択されました

戦略的基盤技術高度化支援事業（サポーターインダストリー：通称「サポイン」）とは、 casting、鍛造、切削加工、めっき等、特定基盤技術の 22 技術分野向上につながる研究開発からその試作までの取り組みを支援する事業です。

平成 25 年度においては一般型では 545 件の申請があり、61 件が採択されており 9 倍の高い倍率でした。

当社では「高品質マグネシウム合金板のコスト半減を実現する高速双ロール casting・圧延技術の開発」を計画テーマとして申請を行い、採択審査委員会の審査を経て平成 25 年 7 月 31 日に採択となりました。

今回の計画テーマの開発目的は、高品質なマグネシウム合金板を、高速双ロール casting・圧延技術の開発を行うことにより、コストの半減を 3 年間で実現させることを目指しています。また次年度以降は超薄板、プレス成型に対応したクラッド材等の開発を行います。



品質特製の向上した安価なマグネシウム合金板を開発販売することにより、競争力を高め、現在価格により限定的な使用にとどまっている市場規模の拡大を目指しています。引き合い等がございましたら、当社営業部までご連絡を宜しくお願いいたします。サポイン採択決定後、公的機関等からの問合せも増えています。

記者 櫻井

3. 部長交代のご挨拶

お取引先各社様におかれましては、益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社では2013年10月1日付で、下記の人事異動を行ないましたのでお知らせ致します。

氏名 吉田 松行 新役職名 取締役営業開発部長
旧役職名 取締役営業部長

氏名 櫻井 淳一 新役職名 営業部長兼務製造部長
旧役職名 製造部長

営業部長を務めて参りました吉田には、今後は営業開発部長として今まで培ってきた経験を活かして新規開発に取り組み、皆様に新たな提案を差し上げて参ります。

営業部長に就任する櫻井は製造部長も兼務しておりますので、品質・納期等に関するお客様のお声を直接お伺いし、製造部門への指示に活かします。

また全く新しい視点で営業部を牽引し、迅速にお客様のご要求にお応えする営業部に参ります。

当社ではお客様満足度向上に繋がる人事と考えておりますので、皆様ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

営業部長交代のご挨拶

このたび当社では世代交替を目的に、営業部長職を交代することとなりました。私儀2013年9月30日をもって営業部長を退任させていただきました。

営業部長在任中は、なにかとお世話になり、ありがとうございました。

10月1日付で後任の営業部長に就任しました櫻井には、新たな感覚で営業部の変革・業績の回復にと頑張ってもらいたいと思います。

営業部長退任後は営業開発部長を拝命し、新規開拓を中心に勤務してまいります。櫻井とともども今後ともご指導・ご鞭撻のほど、宜しく申し上げます。

(取締役営業開発部長 吉田 松行)

営業部長就任のご挨拶

2013年10月1日付にて営業部長に就任いたしました櫻井と申します。

製造部での経験を活かし営業部員のレベルアップを図り、お客様満足度の向上を目指します。前任の吉田同様にお取引先様のご愛顧を賜りますよう努力していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しく申し上げます。

(営業部長 櫻井 淳一)



(左 吉田 右 櫻井)

4. 加工品について

当社では銅丸棒や銅ブスバー、黄銅丸棒の製造だけでなく、加工品の製造も行なっています。当社で製造を行なった素材を使用するため、素材コストが安く抑えられます。

1. 型打鍛造

1、型打鍛造品の一般的特徴

冷間鍛造は高精度成型に、熱間鍛造は大形形状の成型に向きます。

- ① 型打鍛造は、より仕上り寸法に近い形状を作ります。
- ② 量産物でのコストメリット効果は、機械加工に差をつけます。
- ③ 目的に応じて鍛造方法を選択できます。

熱間鍛造で大形部品、温間鍛造で中形部品、冷間鍛造で高精度部品

- ④ 冷間加工で表面硬度を増加する事ができます。

2、権田金属の型打鍛造品の特徴

- ① 材料メーカーなので材料調達がスムーズに行なえます。
材料調達～鍛造～機械加工～納品と一連の対応ができます。
- ② 自社で鍛造図面及び金型の設計ができます。
そして当社の担当技術者が開発、製作のパートナーとして協力致します。
- ③ 鍛造設備が各種揃っていますので、熱間と冷間の組合せができます。
小形製品から大形製品まで対応することができます。
- ④ 当社の鍛造技術を活かして、大手需要家実績があります。

2. パイプ加工

まず無垢の丸棒を製造してから内径の BTA 加工(特殊なドリルで穴を孔ける加工)を行っています。当社の鍛造棒の製造技術と BTA 加工技術を組み合わせる事により、大径でかつ様々な肉厚のパイプ形状の棒を製造する事が出来ます。さらに加工精度に優れたホーニング加工(内径再加工)を行なう事により、厳しい公差に対応する事が可能です。内径公差 $\pm 0.02\text{mm}$ まで対応する事が出来ます。



パイプ形状の丸棒

3. 中空鍛造加工品

中空鍛造の技術は元々鉄系の鍛造技術でしたが、当社は 1,000t油圧プレス機を所有している事からこれを使用し試行錯誤の結果、黄銅の中空鍛造技術を確立しました。

中空鍛造された製品の内外径を旋盤で機械加工し、パイプ形状で出荷するケースとパイプを輪切りにし、更に機械加工を行いリング形状で出荷するケースがあります。

現在では黄銅系だけでなく銅系の中空鍛造も行っていて、リング材の材料としても利用しており中空鍛造は当社にとって重要な技術の1つと言えます。

こちらもホーニング加工する事で、 $\pm 0.02\text{mm}$ まで対応する事ができます。

下の写真は C3604 材の中空鍛造後、機械加工した製品です。



中空鍛造実施 (内外径黒皮)



NC 旋盤による機械加工実施

4. 切削機械加工

液晶パネルやプラズマディスプレイ等の製造に使用されるスパッタリング装置(金属薄膜成形装置)には、バックリングプレート(主に円形)という部品が使われます。

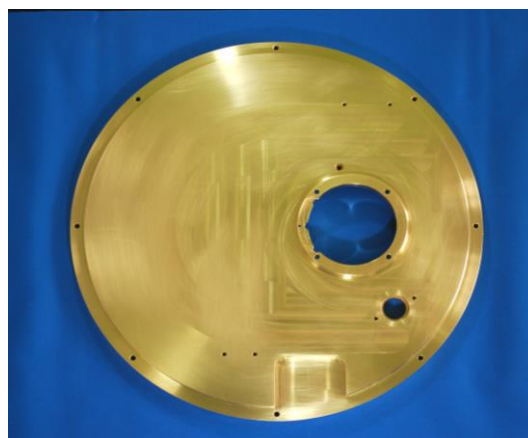
冷却性が求められる場合は、水冷式のバックリングプレートが求められ、バックリングプレート自体

に水路となる溝を掘り使用します。このバックリングプレートの素材には当社で製造している銅系、黄銅系が採用される事が多く、当社ではこの材料の鍛造だけでなく表面や水路部分の切削機械加工まで行なう事が出来ます。

銅



黄銅



以上は、当社での加工実績の一例です。

こういう事はできるのかといった質問や具体的な図面等でお引合いなど、まずは当社営業部までお気軽にご相談ください。

記者 吉田 崇

5. 相模原市について Part2

相模原市は現在大きな産業構造の転換期に差し掛かっています。

第二次世界大戦が終わると相模原市の工業化が進められました。当時相模原市内にあった旧日本軍の施設の多くが米軍に接收されました。その頃の日本は、いわゆる朝鮮特需に沸きかえっており相模原の米軍関連の施設にはたくさんの人々が雇用されていました。

1955年に「相模原市工場誘致の奨励に関する条例」いわゆる「工場誘致条例」が制定されると工場の誘致が活発になり、多くの企業が相模原市に移ってきました。その中には私ども権田金属工業も含まれています（次頁表中の当社の創立は株式会社登記の年月です）。

工場誘致条例による立地企業一覧表 1961年当時（資料：相模原市工業奨励委員会議事録から）（市内操業順）

番号	会社名	敷地面積 (坪)	従業員数/当時 (人)	創立	市内操業	主たる製造品
1	大東レース	4,500	150		昭和31年12月	レース製品
2	別子建設	11,700	100	昭和25年3月	昭和32年9月	コンクリート
3	九州製罐	45,335	650	昭和25年3月	昭和33年4月	缶詰め罐
4	権田金属工業	10,130	51	昭和19年11月	昭和35年4月	銅・黄銅棒等
5	大日本硝子	14,871	133	昭和13年4月	昭和35年4月	硝子・硝子繊維
6	大和ハウス工業	9,060	75	昭和30年4月	昭和35年4月	プレハブ住宅
7	日本金属工業	47,916	142	昭和17年	昭和35年4月	ステンレス鋼
8	セントラル自動車	25,002	500	昭和25年9月	昭和35年4月	自動車ボディ
9	小原光学	26,750	235	昭和16年11月	昭和33年5月	光学硝子
10	スタンダード工業	4,907	375	昭和28年1月	昭和35年6月	電気機械器具
11	東京プレス工業	30,355	150	昭和10年4月	昭和35年7月	金属プレス加工
12	佐倉鉄銅	32,795	238	昭和30年6月	昭和35年7月	事務用品
13	日本ドラム缶	10,065	60	昭和7年3月	昭和35年8月	ドラム缶
14	会田鉄工	14,000	140	昭和12年3月	昭和35年11月	金属加工
15	東洋無線	4,807	700	昭和26年9月	昭和35年11月	通信機部品
16	山光社	6,862	400	昭和5年4月	昭和35年11月	電子通信機械器具
17	山村硝子	20,581	350	昭和30年1月	昭和35年12月	硝子製品
18	昭和電線電纜	26,582	800	昭和11年5月	昭和35年12月	各種電線

市内各地には、1960年代開発の大山工業団地から1990年代に造成が行われたテクノパイル田名工業団地まで8つの工業団地があります。長い間相模原の工業は日本の高度経済成長を支えてきました。

1990年代中盤以降、相模原の経済も国内空洞化の影響を受けて陰りが出てきました。円高が進み、一方ではアジア近隣諸国が経済力をつけるにつれて、幾つかの大手工場は研究開発・試作機能だけを市内に残して海外に生産機能に移すなど、モノづくり機能の低下が懸念され始めました。しかしながら今現在も相模原市内に拠点を構える多くの企業は日本でのモノづくりにこだわりをもち、良質の製品を提供し続けています。去る企業もあれば、新しくやってくる企業もあります。

工場の跡地では再開発が行われています。橋本地区では日本金属工業のあった場所にはセブン&アイによるショッピングモール「アリオ橋本」が建設されました。

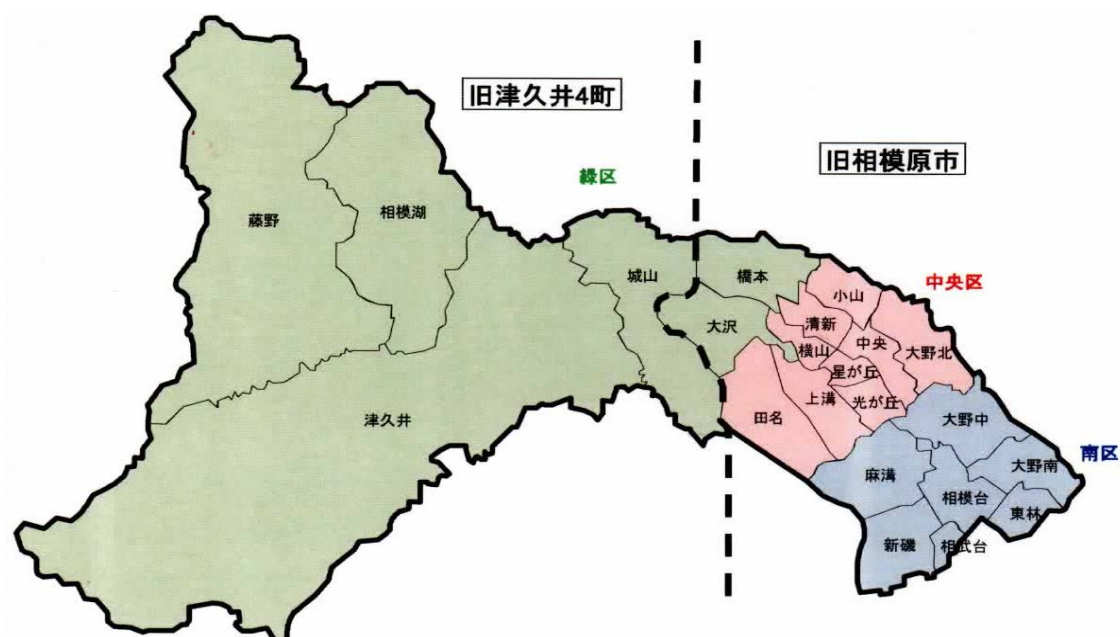
大学関係では新日鉄跡地に青山大学相模原キャンパス、JR淵野辺駅の在日米軍引込線跡地には桜美林大学キャンパスが建てられました。国道129号線沿いでは高速道路の新設に併せて大型物流センターの工事が始まっています。

日本の人口が減少する中で、相模原市の人口は増加を続けています。また相模原市は平成の合併で、神奈川県内で唯一合併を行いました。2006年には相模湖町・津久井町と・2007年には城山町・藤野町と合併しました。

人口増加を受けて、直接消費者と結びつく業種である第三次産業は相模原地区で発展を遂げています。急激な消費人口の増加や市町村合併により、町田地域を含めると相模原の商圏は現在100万人規模にも広がっています。2012年度の統計では、市内の就業者数は247,600人。事業所総数は24,000箇所でした。産業別に見ると第三次産業が約3/4を占めています。10年前には第三次産業の占める割合は約半分でした。

東名高速道路と中央高速道路を結ぶ相模縦貫道の建設も着々と進んでいます。前述のように縦貫道の完成を見越して相模原市だけでなく、厚木市にも大型物流倉庫が造られることが決まっています。現在の相模原市は付加価値の高い優れた工業製品を製作し、それを迅速に日本全国に流通させるべく、新たに生まれ変わりつつあります。

今回は変革の渦中にある相模原市で進められている大型プロジェクトを紹介します。



6. 相場情報『2013年第3四半期見通し』

1. 電気銅建値推移

2013年 7月 710円スタート (7月平均 728.1円)

2013年 8月 710円スタート (8月平均 745.0円)

2013年 9月 740円スタート (9月平均 751.5円)

2013年 10月 760円スタート

2. LME在庫状況及び需給状況

世界の供給状況について。

インドネシアのグラスバーク鉱山での落盤事故は復旧に時間を要している。同鉱山を有しているフリーポート・マクモラン・銅・アンド・ゴールド社は露天堀を開始し急場を凌いでいる。また長期的には、先月同国で新たに銅鉱石の精錬所を建設する見通しを明らかにした。一方世界最大の銅の輸出国であるチリの生産は好調で、2013年は550万トン、2014年は1.8%増の560万トンと予想される。世界の銅の供給量は、2013年は前年比5.9%増しの2066万トン。パンパシフィック銅（PPC）は2015年には2249万トンになるものとの予測を発表している。

需要面に目を向けると、世界の銅の40%を消費する中国景気に復調の兆しが見え始めた。中国税関総署の発表によると8月の中国の輸出は前月比5.1%増・前年比7.2%増となった。また鉱工業生産も前年同月比9.7%増となっている。ゴールドマンサックスグループは、中国の経済成長も今までのような年8%以上の高水準ではないにしても、当面は年6%前後の伸びにとどまるものと予想している。世界的な需要は2013年が前年比3.4%増の2,059万トン、2015年には2,225万トンになるものと見込まれている。2013年は7万トン程度の供給過多になる見込み。

3. 為替の見通し

アメリカの来年度予算案の年度内の不成立は確実となったが、金融市場の反応は冷静だった。アメリカの予算不成立に伴う政府機関一時閉鎖を受けて、世界的に株価が大幅に安値になった後に上昇に転じている。対外的なアメリカ経済に対する信頼感が揺らいでいることは確かであるがすぐにドルが暴落するとは思われない。またシリアの化学兵器問題にしても市場は織り込み済みで、為替に対する影響は最小限にとどまるものと思われる。

他方国内に目を向けると、東京オリンピック開催決定、2013年度第1四半期のGDP成長率の上方修正、さらに安倍政権の消費税率引き上げにより円に対する評価は高まりつつある。

為替に大きな変動はないものの、市場の評価を背景に暫くは 100 円/\$ 前後の小刻みな動きとなりそう。

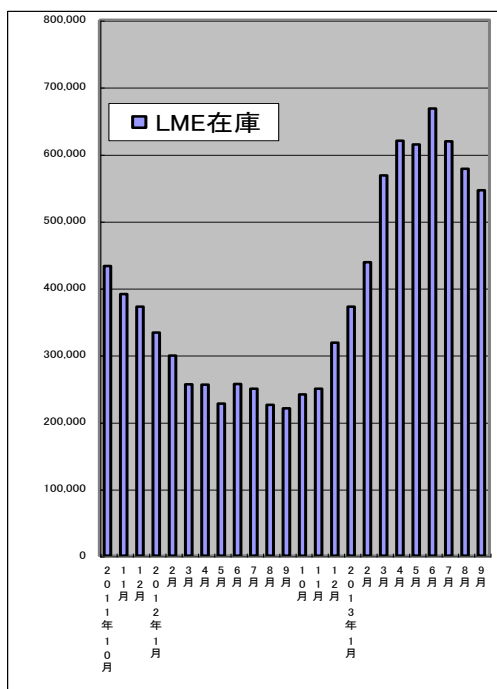
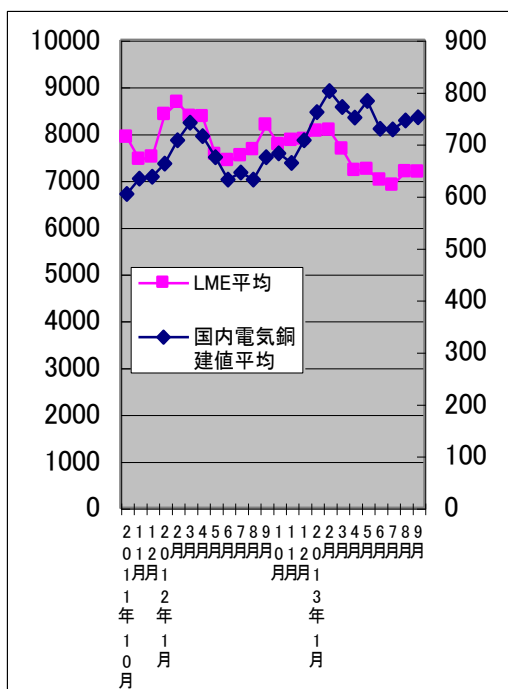
4. 相場の見通しと予想

2012 年の時点で 41 万トンの供給不足であった銅の需給は、2013 年時点では 7 万トンの供給過多とほぼバランス状態となり、2015 年には 24 万トンの供給過多になるものと予想されている。しかしながら過剰となる量はわずかであるため、多少の変動はあっても今の水準を維持するものと思われる。

相場は以下の通り予想する。

短期予想（1M） \$ 6,900—7,300/t 為替 97—101 円/\$（TTS）
銅建値 710—770 円/kg

長期予想（3M） \$ 6,700—7,400/t 為替 97—102 円/\$（TTS）
銅建値 700—780 円/kg



記者 田中